

3.11伝承ロード研修会に参加して

このレポートは、11月21日、28日の2回に渡り1泊二日で開催した「3.11伝承ロード研修会に参加した方から報告して頂いたものです。その際にお願ひした内容は以下のとおりです。

- レポートの内容は自由です。
- 研修会に参加した感想
- 写真やパンフ等の貼り付けても構いません。
- 語り部さんや説明者の内容での気づき
- 施設での気づいた点
- 研修会で改善すべき点、もっと充実してほしい点 など
- A4で1程度のボリュームで結構です。

「3.11伝承ロード研修会」の感想、意見等

仙台市在住
50代 男性

1 日時等

- ◎ 令和元年11月21～22日（1泊2日）
- ◎ 参加人数 32名+事務局3名
- ◎ 主な施設 震災遺構旧大川小学校、高田松原津波復興祈念公園、
東日本大震災津波伝承館、釜石鶴住居復興スタジアム、
うのすまい・トモス、釜石市内津波復興拠点事業、遠野後方支援資料館

（注）下線箇所では、被災者自らの体験等による説明がなされた。

※ コース等は別添資料を参照

2 本研修の感想

第1回目「3.11伝承ロード研修」に参加し、初めて被災者の自らの体験した壮絶な話を聞き、将来へ向けての防災（減災）への取り組みは必要不可欠とあらためて実感したところである。

特に、地域によりその被害の程度も異なることからその体験あるいは被害状況を踏まえながら、復興とともに防災に対する取組みがなされており、一概に、施設等の必要性等の個別の判断は出来ないが、共通する取組みは、「①そこで生活する「命」をどのように守るのか。」「②災害に対するリスクをどうしたら減らすことができるのか。」について、しのぎを削りながら取り組んでいることに感銘を受けたところである。

一方、「震災伝承施設」として登録がなされている施設は、復興とともに災害の教訓を後生に伝承し、その地域に住む方々の防災教育等のために貢献する施設となっているところであるが、広く知らしめ、次につながる具体的方策等を模索しているように思われた。

3 本研修の意見等

今後、研修のプログラムは、参加する者の職業等を踏まえ、コースを絞りながら各施設の取組みを視察後、「防災に関する手法」を専門の方から指導してはどうか。

また、一般の方、学生、専門技術者等々をすべてを対象とする一般コース、学生のみを対象とした学生コース、専門技術者を対象とした専門コースなどを設けて、未来に向けての防災に関する研修を進めてはどうか。

一方、とどの施設からも大小にかかわらず「教訓がいのちを救う」という3.11伝承ロード推進機構が掲げるテーマに合致する施設であり、関係機関と密に連携し、情報発信の中心になっていただきたいと考えるところである。

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

仙台市在住
40代 男性

○研修会に参加した感想

機構設立後、初めての研修会とおっしゃっておられましたが、何不自由なく、素晴らしい経験をさせていただきましたことに感謝いたしますし、事前のご準備やご調整など綿密な企画をたてていただきありがとうございました。弊社は日建連様経由でお声がけいただきましたが、この研修会に参加したいと考えている人口は非常に多いものかと感じています。今後もこの研修会が継続される場合には、現地を知らない若手～中堅社員にも参加させ、様々なことを学び感じとって来てもらいたいと考えております。

○語り部さんや説明者の内容での気づき

被災者または遺族から直接語られる事実は、TV画像や音声で知る情報よりも色濃く我々の心に響いてくるものだと感じました。我々に対して、丁寧な口調・言葉遣いでご説明いただきましたが、あまりブレーキをかけず、より真に迫るような話し方であれば、より彼らの意向が伝わるのに、少しもったいないと感じながら聞いていました。また、どなたも必ずキーワードを織り交ぜて話していただけるので、印象にも残りました。彼らにしか使えない言葉が我々の胸に突き刺さり、我々が共感して苦しい気持ちになってこそ、この研修の意義があるのだと考えました。

「ハッピーエンドで終わられる事前準備こそが正解であり、分厚いマニュアルづくりが目的ではない」

「常日頃、先生から与えられる想定外の題材に対応していたので、迷うことなく判断し行動できた」

○施設での気づいた点

旧大川小学校を見学した際、震災遺構と位置付けられた施設内に入れることを知らなかったため、非常に驚いている方が多かったです。貴重な機会ではあるが、足を踏み入れることに躊躇している様子の参加者もいたので、事前にそういった情報は伝達しておく方が良いと感じました。

○研修会で改善すべき点、もっと充実してほしい点など

1泊2日という限られた研修時間の中で、コースや内容については十二分に満足のものでありました。円滑な見学誘導、時間管理のおかげで皆さんが納得のいく研修を体験できたと思います。

あえて意見させていただくのであれば、語り部さんが話す際は、もっと語り部に近寄り、目を見て話を聞くよう促していただきたい。せっかくの機会ですのでギュッと集まった状態で生の声を聴く姿勢で語り部さんに接するのがマナーであると感じました。また、話の内容もさることながら、彼らの目を直視して聴くこともマナーだと思います。

アナウンスしていただいたとしても効果は低い気もしますが、もっと近寄って、目を見て、うなずいて話を聞いてあげたいと思いますし、壮絶なご経験を重ねてこられた方々に対する礼儀だと思います。なにとぞご検討のほど宜しくお願いします。

以上

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

仙台市在住
50代 男性

この度は貴重な機会をご提供いただきましてありがとうございました。

これまで震災の甚大な被害については、新聞やTV等の報道でのみ見知ったつもりでおりましたが、実際に体験し、被災し、今を生きる方々から直接お話を伺うことは大きく、深く、強く身体に沁みました。

この研修会への参加前は、被災地の見学や復興の様子、悲痛な体験談を聞くことは、大きな災害が起こった事実を確認することで、被災直後の体験や家族を失った方お話を伺い、その方々の心痛を理解し如何に寄り添っていくか、を考えることが「伝承ロード」の考えだと思い込んでおりました。しかし、研修を通して認識したことは「防災」の重要性でした。

『津波 てんでんこ』。先人からの伝承を、今を生きる我々がいつか先人となる事実を、未来を生きる人々につなげる活動を、疎かにしてはいけなないと気づきました。この「伝承ロード」の活動が広く認知され多くの方に理解されることを期待します。

そんな思いの中でですが、宿泊先とされた宝来館のおかみさんの考え方には賛同しかねる自分もおります。生まれ育った故郷は大事にしたいという思いは理解しますが、その場で生活し続けることがその証になるのでしょうか。先人からの伝承を何故生かそうと考えないのでしょうか。また同じように被災することは明白です。救助や復旧・復興に再度多くの方々が（お金を含め）汗をかかされるのです。奇跡の松林を守るために防潮堤の建設を断りましたと胸を張っておっしゃっておられましたが、その主張が将来どれほどの影響を及ぼすのか、その責任は？。宿泊業は人の命を預かる商いです。裏山に避難道を整備してます、で事は済むのでしょうか。ちょっと辛辣かも知れませんが、こんな見方もあるのではないのでしょうか。

こんな思いも今回の研修に参加したからこそ考えさせられたものです。貴重な時間でした。見学先で対応下さった皆様は本当に誠実にお話しして下さいました。感謝です。事務局の皆様も大変ご苦労様でした。ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

仙台市在住
50代 男性

業務では被災地を何度も訪ねていますが、研修会として訪れ施設等を見学してみると東日本大震災の凄まじさ・恐怖を改めて知ることが出来たと同時に、忘れかけていた災害に対する防災意識を高めることが出来ました。ただ今回の研修会ではハードスケジュールのため時間に余裕が無く、もっとじっくりと見学・説明を受けたいと感じました。

語り部さんや説明者の皆さんは実際に東日本大震災を体験した方々で、生々しい話を聞くことが出来たのは非常に良かったと思います。特に大川小学校の佐藤さんの愛娘を亡くされたこと、“奇跡の生存者”只野哲也さんの話は聞いている方も辛く、『あと数分非難するのが早ければ、すぐ後ろの裏山に逃げられたら』という想いととも、佐藤さんの『今後このようなことが起こってはならないように万全の防災対策・防災意識を日頃から心がけることが大切』という強いメッセージが伝わってきました。

東日本大震災津波伝承館は施設がとても立派でしたが、時間の都合でゆっくり見学することが出来ず残念な思いをしました。高田松原津波復興記念公園は予想完成図のみの見学でしたが、様々な施設を計画しており地域の方々にとっても完成するのが非常に楽しみで、完成すれば地域活性化につながる公園となるのではないのでしょうか。道の駅「高田松原」はオープンしたばかりでしたが、高田松原津波復興記念公園とともに改めて見学したいと思っています。

宝来館ではユニークな女将さんの話がとても面白く、『前を向いて・力強く・明るく』ここまでやって来ていることが伝わり、すごく勇気をもらいました。うのすまい・トモスでは当時中学生だった子供が一生懸命説明している姿、災害時に小学生を無事非難させなければという語りが、とても新鮮で印象的でした。

うのすまい・トモス、宝来館の女将等、語り部さんや説明者、被災者の方々は当時のことを振り返りたくないのが本音だと思いますが、何とか東日本大震災の惨劇を後世に伝えていきたいという想いの中、勇気を出して話されていることが伝わりとても良かったです。これからも頑張って悲惨な災害の恐ろしさ、命の尊さを伝えてください。

今後は集中した施設等を見学で時間的に余裕のある研修を計画・実施し、もっと詳しく参加した方々に東日本大震災での出来事や惨劇を伝えてほしいと思います。

最後に、弊社内及び知人などにも被災地での出来事や活動を伝えるとともに、社内研修等を計画した場合などの参考にしていきたいと思っています。

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

東京都在住
50代 女性

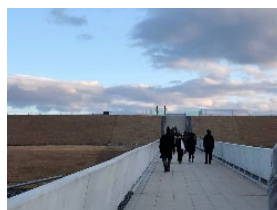
上司の勧めもあり 今回研修会に参加いたしました。

震災後、復興について最近では報道等で見える情報ぐらいしか知らず、今回初めて被災した場所に立ち、見て、話を聞き、震災の重大さを改めて認識しました。

初日の大川小をはじめ、報道では知っていたつもりではいましたが、実際に話を聞き、風景を見て、想像以上の悲しみと恐ろしさを感じ、まだ震災、復興は終わっていないのだと思いました。



大川小学校跡地



陸前高田

次の日に行った遠野市後方支援資料館では 被災した人々をどう手助けできるか改めて考え、もし支援する立場になったらいろいろ勉強になりました。復興とは被災したところばかりのことではないとも気づきました。遠野市の活動をお手本としていきたい。

今回の研修では、釜石ラグビー場、旅館のおかみさん、鶴住居でのいのちをまもる未来館で実体験を話してくれた女性など、自身でもとてもつらい経験をしているのに前向きに生きている人がたくさんいることを知り、嬉しくなりました。



宝来館



釜石



釜石防潮堤整備事業



遠野市後方支援資料館

また、大変な復興工事をしていただいている現場の方々、市職員、応援にきている他県の方々を目の当たりにし、心強く頼もしく誇らしく思いました。

最後に今回のツアーを企画してくださった3.11伝承ロード事務局の皆さま、また、私たちのために資料を準備して待っていてくださった方々に心より感謝申し上げます。時間がなく、急ぎ足での視察のところもあり、とても残念でもう少し話をお聞きしたかったです。次回のツアーに反映して頂けたら嬉しいです。

この研修で得たことを『伝えていく』こと、『忘れない』ことをこれから続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

東京都在住
70代 男性

「（一社）計画・交通研究会」の徳山日出男理事から会員へのメールで、「3.11伝承ロード研修会」の開催を知り、個人参加しました。

（一財）首都道路協議会として、これまで3回、東日本大震災復旧・復興支援道路視察を実施しました。昨年の2018年6月も、3回目の東日本への道路視察として気仙沼市、南三陸町、陸前高田市、及び三陸沿岸道路の建設現場を訪れました。

今回参加して、昨年と復興状況が異なるのは、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内の国営追悼・祈念施設と東日本大震災津波伝承館が開館、部分開園していることでした。

さらに、「震災伝承施設マップ」（（一財）3.11伝承ロード推進機構作成）で、多くの伝承施設が開館していることを知ることができました。

今回の研修で印象に残った点を二点述べます。

1. 一つは、行程の構成がよく検討されていることです。

最初に「震災遺構 旧大川小学校」という個別の重い課題から入り、次に大震災の全体像を陸前高田の「国営・東日本大震災津波伝承館と高田松原国営追悼・祈念公園」で俯瞰し、最後に釜石の復興の取組みの現場で話を伺い、逆に元気を頂きました。

石巻市、陸前高田市、釜石市の三カ所を巡る強行日程を可能にしたのは、「三陸沿岸道路」のこの区間の大部分の開通です。

1) まず、震災遺構の旧・石巻市立「大川小学校」は、衝撃でした。津波で多くの児童が亡くなったことや、裁判が進行中であることは報道で知ってはいました。

現地に着いてバスから降りたとき、北上川の堤防の傍の、周りに人家のない位置にポツンと残っている廃校舎に驚きました。かつては集落があり賑やかだったそうです。

語り部ガイドの佐藤敏郎氏は、ここでお子様を亡くされた父親で、教室の中、校庭、裏山を熱心に案内し、語ってくださいました。自制した語りが心に響きました。

寒風の吹き荒ぶ校庭に立ち、隣接する裏山を見上げ、実際に中腹まで登ってみて、児童をここに避難させなかった判断の重大さ、教訓を実感しました。

今回の研修後の、2019年12月1日、最高裁判決で、石巻市と宮城県の上告が棄却され、「学校と行政に事前防災対策の過失」があったことが認定されました。



旧大川小学校の語り部：佐藤敏郎氏



石巻市の旧大川小学校の校門

2) 陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内の国営追悼・祈念施設と東日本大震災津波伝承館を見学。

岩手・宮城・福島の3県に一つずつ、国と地方公共団体が連携して復興祈念公園を整備し、国営追悼・祈念施設を設置するとのことです。

このうち、岩手県において整備中の陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内の国営追悼・祈念施設と東日本大震災津波伝承館を見学しました。展示内容が充実していて、全体像を俯瞰できるものであったが、残念ながら、時間が足りなかったです。

少なくとも、両方合わせて2時間は欲しかった。また訪れたいと思いました。

昨年の6月に来たときは工事中でしたが、この9月に開館したとのことでした。

祈念公園の高い堤防に立ち、高田松原跡に植樹された松の苗木を見て、振り返り、陸前高田の高盛土された広大な土地と、少し建ち始めた建物に明かりが灯り始めた状況を一望しました。これからが復興の山場だと思いました。

3) 釜石も印象に残りました。

① 宿泊する「宝来館」に到着すると、女将の話を皆でまず聞きました。

津波対策として、予め、裏山への避難路は整備していたとのことです。

津波が来たとわかって、すぐ、客と従業員を裏山に誘導したとのことでした。

そのときの動画が迫力ありました。絶叫して誘導していました。

二階のベランダまで津波が到達したとのことでした。

地域の女性の「大津波・相撲甚句」に、皆で「あ～、ドスコイ、ドスコイ」と手拍子をして唄っていただいたことは思い出に残りました。



陸前高田市の祈念施設の堤防からの景色
東日本大震災津波伝承館と道の駅跡



釜石の宝来館の女将と大津波相撲甚句の女性

② 釜石市鶴住居（うのすまい）震災復興スタジアム（流された鶴住居小学校・釜石東中学校跡地）で、震災復興スタジアムができた経緯と、ラグビーワールドカップが釜石市民に与えた影響を、スタジアムの観覧席と芝生で話を伺うことができました。

- ③ 鵜住居の「いのちをまもる未来館」では、案内員の菊池のどかさんから話を伺いました。菊池さんは、当時、釜石東中学校の三年生で、「つなみ、てんでんこ」の教えに基づいて、三年生がみなで一年生の手を引いて、夢中で避難し、鵜住居小学校生徒を含めて、共に避難した全員が助かった経験を話してくれました。

併せて、道を隔てて隣接した位置にあった、「釜石市鵜住居地区防災センター」に地域の住民が避難してきて、津波のために多数が犠牲となった教訓を話してくれました。

津波災害の避難場所ではなかったが、施設の名称が「防災センター」とされ、地域でこの施設を利用した津波避難訓練が行われていたことから、津波災害の避難場所であるとの思い込みから、震災当日、多くの住民が避難してきたとのこと。

あまりにも対照的な結果をもたらした二つの事例を聞き、正確な津波対応知識の普及の重要性を再認識しました。

- ④ 釜石市復興推進本部都市整備推進室都市拠点復興係の佐藤善広係長から、復興事業の現場と、津波の際に市民が避難した裏山への避難階段を登った地点に案内していただきました。



釜石市鵜住居に菊池のどか説明員
(当時、中学3年生)



釜石市の職員、佐藤善広氏

このほか、遠野の後方支援センターも見学しました。

2. 印象に残った二つ目は、説明員を厳選して頂いたことです。
どの方も素晴らしい説明でした。

「(一財)3.11伝承ロード推進機構」の原田吉信事務局長、事務局の山崎麻里子様、河北新報トラベルの大須様には大変お世話になりました。ご尽力に敬意を表します。

おかげで、充実した研修を受けることができました。

3.11伝承ロード推進機構の取り組みのさらなるご発展を祈っております。

(2019年12月2日)

3.11伝承ロード研修会（2019.11.21-11.22）に参加して

東京都在住
50代 女性

この度、ご縁があり『3.11伝承ロード研修会』に参加させていただきました。
1泊2日、駆け足の各地訪問となりましたが、日々の生活に追われ、震災の記憶も風化しがちな毎日の中、今回東北地域の实情や伝承施設で生の声を聴かせていただき、改めて多くの人たちの犠牲が無駄にならぬよう、また被災地の活性化になるよう伝承施設を多くの人々が訪れる必要性があると感じました。

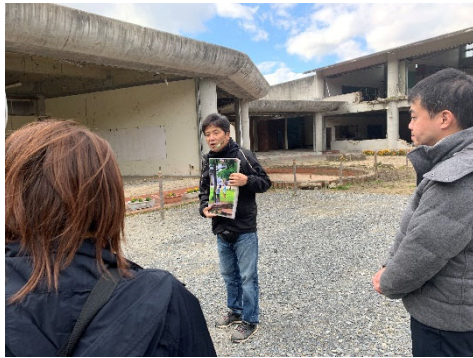
なかでも、印象深かったのはやはり大川小学校でした。
大川伝承の会、佐藤敏郎さんのお話はどの場面も胸に深く響きました。
辛い場所であると同時に子供たちが楽しく過ごした場所でもあることも。
震災当時小6だった私の息子が2013年に大川小学校を訪れており、帰ってから当時息子が撮った写真と見比べながら大川小学校について二人で話をしました。
2020年には整備も進むようなので、今度は親子で足を運んでみたいと思いました。
そして、大川小学校こそが第3分類に選定され、より多くの人に語り継がれていくべき場所だと強く感じています。

今回の研修会は、先ほども申し上げたように駆け足の2日間でしたが、どこの伝承施設ももっとゆっくりお話を聞きたかったです。少ない時間ながら丁寧に説明をしていただいた語り部の方たちへ感謝すると共に申し訳ない気持ちでした。
今後このような研修会を企画していただくなら、今回は入門編とするならば実践編として各地域地域でもう少し掘り下げて、ゆっくり巡る会もあってよいかと感じました。

事務局の方々に感謝するとともに、当日撮影した写真を載せていただきましてこのレポートの締めとさせていただきます。



一番心に刺さったのが大川小学校。108名の児童のうち74名の子供たちが犠牲になりました。大川小学校だけがあの時の時間のままでした。



大川伝承の会の佐藤さん



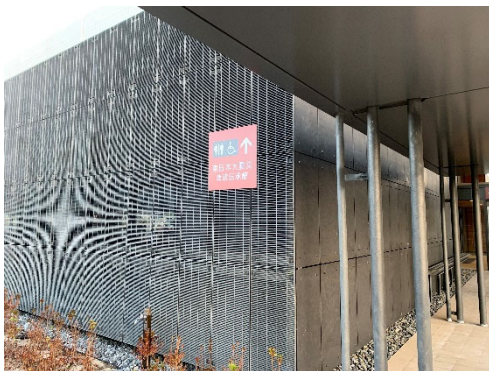
崩れ落ちた渡り廊下



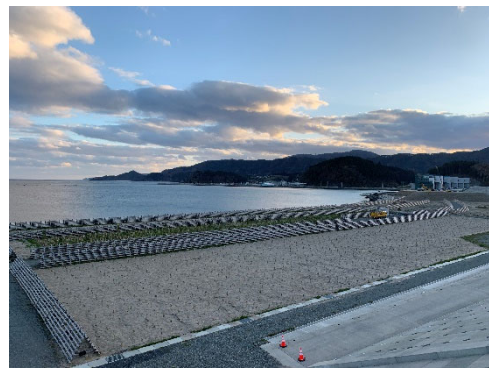
2階の色が変わっているところまで水が来ていたそうです



あの時校庭に留まらず、裏山に逃げていれば助かったと確実に思える場所



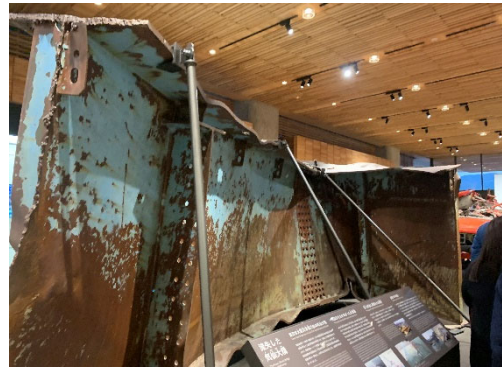
津波伝承館



松が植樹されています、美しい松原を改めて見てみたい



公園の整備進められています



鋼橋がこんな形に・・・



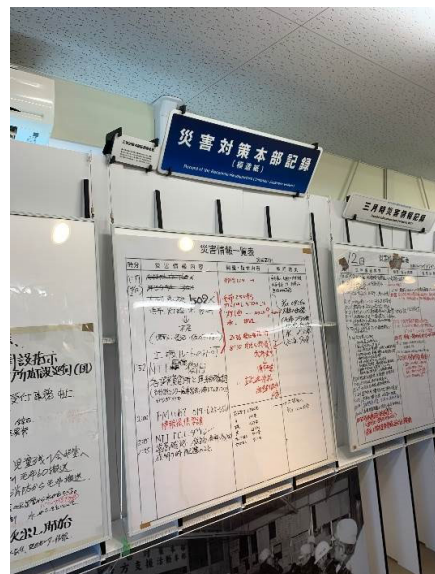
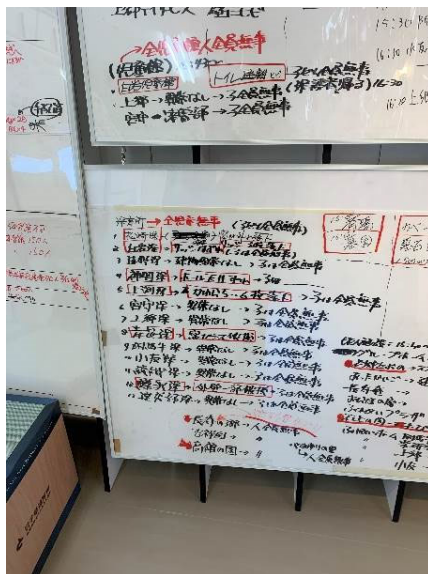
宿は釜石の宝来館。ここからの画像
テレビで何度もみました。



女将の津波体験を伺いました。
帰りは大漁旗でお見送り。



水門・陸こう自動閉鎖システムの導入



後方支援の拠点地となった遠野市の資料館。
震災当時そのまの資料が残されています。

「伝承」について

新潟市在住
50代 男性

被災当事者であったことのない者にとって、災害の記憶はどんどん上書きされていきます。毎年のように全国どこかで大きな災害が起きている昨今にあっては、たとえば新潟県中越地震や中越沖地震など地元で起きた災害であっても、東日本大震災のインパクトに比べれば否応なく霞んでしまいます。危惧されている南海トラフや首都直下といった大地震が起きてしまったら、東日本大震災の記憶でさえ霞んでしまうのでしょうか。だからこそ「伝承」がなにがしか意味を持つと思いはするものの、それが後世の多くの命を救うかどうかはわかりません。たしかに、災禍に見舞われた語り部の方からお話を聴けば心が動かされますし、行政や研究者にとって整備されたアーカイブはのちのち大いに役に立つことでしょう。だからといって、それらが後世の「命を救う行動」につながっていくのか。今年どこかの水害で、お隣さんが誘いに来たから避難所へ逃げた（誘いがなければ逃げたかどうかわからない）というコメントがありました。避難行動の実際はそんなものでしょう。「釜石の奇跡」も、ふだんから知っている人の懸命に逃げる姿に皆がついていったと、簡単に言ってしまうばそうかもしれません。とすれば、最初のアクションが重要になってきます。この、最初に逃げた人の動機づけはなんなのか。そこに「伝承」は関わっているのでしょうか。

さて。新潟市西区に宝光院というお寺があります。この本堂の柱には、今から120年以上前の1896年（奇しくも明治三陸大津波と同じ年）に、信濃川の堤防が決壊し越後平野一帯を数ヵ月にわたって水浸しにした大洪水「横田切れ」の浸水跡が残っています。1965年にこの寺へ嫁いできた解良（けら）節子さんは、近所に住む横田切れを体験したおばあさんから柱の痕跡がなにかを教えられ、寺から直線距離で約30km離れた現在の燕市横田の地へ自ら足を運び、大水害の惨状を、当時を知る人たちから聞き取ります。やがて、寺を訪れる人たちに横田切れについて語ることを始められ、年齢80に近づいた今でも総合学習やまちめぐりで訪れた人たちに語り続けています。

今と暮らしぶりがぜんぜん違う時代の話で正直、子どもたちがどこまで理解できているかは疑問です。「蚊帳の中で寝ていた」と言っても、「カヤってなに？」という話です。たまたまそういった場に居合わせる機会があれば、ぼくは子どもたちにこう言っています。「話の中身はよく理解できないかもしれない。ただ、100年以上前の出来事を今、語ってくれる人がいることのスゴさはわかってほしい」と。

さて。こんなことを言っているときのぼくは、「伝承」の価値をどのように考えているのでしょうか。

被災当事者であったことのない者にとって、被災地のようすにいくら心を痛めても、そのままでは結局は「ひとごと」です。この研修で、わずかですがあの震災と対峙した「わがこと」に触れることで、わが身に降りかかるかもしれない次なる災害での「わがこと」に少しは近づけた気がします。

それは、いくらかの命を救う端緒となるかもしれません。

3.11伝承ロード研修会レポート

新潟市在住
20代 男性

先日は伝承ロード研修会を開催していただきありがとうございました。
私が7年前に見た風景とはまた違った風景に変わっていたことがとても印象的でした。大川小学校での語り手さんの話を当時小学生だった自分と当てはめて話を聞く場面が多々ありました。寒くて怖い思いをしながらグラウンドに1時間も待機していたという話を聞いたときに何でこんなことをしていたのだろうといった疑問を浮かべる事がいくつかありました。この研修会で東日本大震災の怖さを改めて知ると共に新しく知った情報なども沢山ありました。実際に被災された方の話を聞くのがとても貴重な体験ですし、決して忘れてはいけない出来事だと思いました。
外で話を聞くことが多かったので天気が安定してもうちょっと暖かい季節で開催した方がよいと思いました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
60代 女性



1. 語り部さんから学ぶ

東日本大震災発生から10か月後の1月、被災地のいくつか回った。研修コースの一つ「東日本大震災津波伝承館」がある陸前高田にも行った。“奇跡の一本松”を見ながら、荒涼とした風景に呆然とした。その空間が東日本大震災の伝承館、復興祈念公園が整備されていることに時の流れを感じた。大勢の人が訪れ、学ぶことが一番の慰霊になるだろう。

語り部さんたちのお話を聞き、この研修に参加して本当に良かったと思った。大川小でお嬢さんを亡くされた佐藤さん。避難場所とされていた裏山は数分で登れる場所にある。どんなに無念だったろう。しかし学校を攻める言葉はなかった。一人ひとりが状況を判断し行動できることが大切だと言われていた。

宝来館の女将さんからは、ラグビーW杯招致で市民が心一つにして復興に至った経緯を聞き感激した。また、「釜石あの日あの時甚句」を聞き、東北人の「生災害と向き合い過去を受け止め、しっかりと未来をみつめ、自分のなすべきことを悟り、私たちに伝えようとしている姿に心を打たれた。研修は、この日本でどう生きるかを考えるきっかけにもなった。



2. 私ができること

研修で感じたこと、今回行かなかった震災遺構を訪ね発信したいと思う。友達（特に西日本に住む友達は関心が薄いようなので）に話してみようと思う。

3. もっと「3.11伝承ロード」知ってもらうために・・・

夕食時に、もっと大勢の人に学んでもらうために、修学旅行などに取り入れてもらったどうかと旅行者の方に話したが、沈黙があった。自分はまだ被災者の方々の本当の悲しみを理解していなかったと悔やんだ。しかし、当時中学生だった子供たちが、語り部として教訓を伝えようとしている姿は、同世代には深く感じるものがあり防災教育になると思う。

静岡県などから職員が派遣され被災地を支援していた。この縁を強く継続させるためにも被災地以外の県外者の修学旅行を考えてもいいのではないかな・・・。

3.11伝承ロード研修会に参加して（2019.11.28～29参加）

仙台市在住
50代 女性

この度はたいへん有意義な体験をさせていただき感謝しております。
私は岩手に生まれ、現在は仙台に住んでいます。家族や友人と震災時の様子について語り合うことはあっても、被災地に足を運ぶこともなく、被害の生々しい写真などからは正直なところ目を背けてきました。

今回、甚大な被害を受けた地域に足を運び、また被災した方の声を聞くことで、今まで知らなかったことを知り、また伝承していくことの大切を感じました。大川小学校に行く前は、「広々としたところにポツンと建つ学校だったんだな」と勝手に思い込んでいました。語り部の方から学校の周りには商店などもある集落だったと聞き、とても驚きました。裏山に登って小学校を見下ろしたとき、「子供たちがこの斜面を駆け上っていたら……」と思い、残された家族の無念さが胸にこみ上げてきました。

釜石の「いのちをつなぐ未来館」では当時鶴住居中学校の3年生だったという方のお話を聞くことができました。防災について体系的に学習していたことが奇跡を起こしたと認識していましたが、「点呼をとっている場合ではない、走れ」、「もっと高台へ!!」という避難指示のおおもとは校長先生から発せられていたという事実を知りました。皆で学ぶこと、皆で備えることの大切さをひしひしと感じました。

繰り返し耳にした“津波てんでんこ、”という言葉。そこには「津波がきたらとにかく逃げて、その結果もしも大切な人が助からなかったとしても、逃げた自分を責めることがないように」という意味も込められているのだと聞いたことがあります。何度も何度も津波に襲われた悲しい歴史から生まれた人々の思いが詰まった言葉なのだと思います。

私自身が震災の経験から学んだことがあるとすれば“人と人とのつながりの大切さ、”だと思います。今回の研修では知らなかった事実のうちめされましたが、未来を思いながら今を生きる人々からたくさんの希望をもらうことができました。私たちを笑顔で出迎え、翌朝は大漁旗を大きく振って見送ってくれた宝来館のおかみさん。「自分を救うことができる人は、他の人のことも救うことができる」という言葉にエネルギーをもらいました。

今回訪れた伝承施設がずっと続いて行って、想いが引き継がれていくことを願います。そのために自分にできることは何か、改めて考えていきます。
事務局の皆様、ほんとうにありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
60代 男性

○研修会に参加した感想

東日本大震災から8年以上が経過し、被災結果とその原因の再確認と今後の防災で重要なことを整理するために研修会に参加しました。伝承ロード研修会に参加した感想は、防げた被災を今後繰り返さないために、伝承ロードが立上げられ、関係者（語り部さんも含む）の使命感が強く感じられました。この研修を良い機会として、今後の防災への取り組みとして、まずは家族、親族、職場、事業関係者と順次広げていく形で防災・減災に取り組んでいきたいと考えます。

また、官・学・民の連携のもとで、減災のための教育・指導・行動マニュアル・避難所の整備及び緊急時の支援対応を継続的に取り組むことの重要性を感じました。

○語り部さんや説明者の内容での気づき

テレビ等の報道での受け止めと、実際に災害を経験した語り部さんの話しでの事実の受け止めとで大きな違いを感じました。実際に現地を踏査し、被災経験者からの説明を聞き、自分なりに被災原因とその時の対応を検討して、今後の防災に活かすことの重要性を強く感じました。特に、大川小学校や鶴住居防災センター他での悲劇と釜石の奇跡と呼ばれた鶴住居小・中学校の避難行動をしっかりと比較検討する必要性と、国民全員に周知していくことの重要性を感じました。特に学校教育での取組みは重要と考えます。

次に被災地の復興については、鶴住居宝来館の女将の被災から現在に至る被災地復興にかけた使命感と尽力に感動しました。今後のさらなる復興を祈念するとともに少しでも被災地のお役にたてるようにしていきたいと思えます。

○施設での気づいた点

報道では、実際の被災地が主となりますが、今回の研修で、後方支援拠点としての遠野市の英断と市民一体による支援の大きな成果を確認できました。このような被災を想定した事前の後方拠点整備と訓練が重要と考えます。

伝承ロード施設では、活字説明も当然重要ですが、短い時間でも研修成果を上げられるようにするためには、語り部や映像と写真による説明が有効と思えます。

○研修会についての参考意見

今回の研修会は、建設業関係者を対象としていましたが、できれば多種の業種関係者混同の研修（官・民・学）での意見交換も有効な研修となるのではないかと思います。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
60代 男性

○研修会に参加した感想

- ・バスの中で放映されたアニメ会員企業にPRしたいのを購入したい。販売できる仕組みをお願いします。
- ・今回のコースで、高田松原での時間が短かった。
- ・大川小学校では今回案内のように必ず語り部さんが必要かと。
- ・鶉住居 いのちをまもる未来館での女性説明者に感動しました。
- ・色々な研修パターンの提案をお願いしたい。

3.11伝承ロード研修会に参加して

山形市在住
50代 女性

研修会のお話しをいただいて震災伝承施設が多数ある事を今更ながら知り驚きました。

被災地を見たくないという気持ちがありましたが、研修会に参加させていただいた結果、震災当時の状況や復興状況を見るべきだと思い直しました。同時に災害に対して自分に足りない物は何？と考えたら自分が避難すべき場所ハザードマップの確認でした。

- 1日目の語り部さんと2日目の語り部さんとの違いを感じました。上手く表現できませんが、大川小の子供達が亡くなってしまった海しさ悲しみ。釜石の子供達は逃げ切れたから若い自分が語り継いでゆくという強い意志。対照的かなと。。。語り部さんの言葉は多くの人に聞いてもらいたいと強く思いました。
- 活字だと自ら読まないとわからないままで終わるし、言葉だとずっと耳に入ってくる。語りついでいくのは大切なんだと改めて感じさせていただきました。
- 施設ではもっとじっくりと見てみたいと思うような場所もありましたので時間が足りないかなと感じることもありました。

どうやったらみんなに伝わるのかと考えると今回のような研修会が良い企画なのではと思いました。是非たくさんの方に参加してもらい知ってもらうことが大切なんじゃないかと思いました。

伝承ロード研修会は学習させていただきました。ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

東京都在住
30代 男性

○研修会に参加した感想

私はこれまで、震災地に直接出向いたことは無く、メディアで見識を得ていた。そのような中、初めて震災地を訪れ、被災の渦中にいた方々のお話とともに伝承施設を見て学ぶことができ、貴重な体験となった。特には、“てんでんこ”を最も大切な教訓と感じ、研修終了後、真っ先に家族に伝え共有した。どこに逃げるか、どのような考えで逃げるかなど話し合いつつ、各自で最善を考え行動するという意識を、防災への備えを改めていきたい。

○研修のメリット・有効だと思った点

冒頭の“大川小学校”のように、結果的に残念ながら至らなかったところがあったお話、“いのちつなぐ未来館”のように普段の取り組みが実を結び助かった話、対照的な両方の話を聞くことで、自分の中で重要な部分を意識することができた。この点で、震災伝承の教訓がより一層効果的になっているのではと感じた。

○研修会で改善すべき点、もっと充実してほしい点

鵜住居に向かう途中で、大規模な水門を車中から眺めることができたが、このような圧倒的な構造物も見学行程に含まれていたら有難かったと感じた。

○謝辞

今回、11月という繁忙期に入り大変寒い最中、このような有意義な研修を企画し、当日要所要所でご案内をいただいた3.11伝承ロード推進機構の皆さま、また伝承ロードという人のネットワークをつなぎお話をいただいた方々、大変感謝しております。ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
50代 男性

研修会に参加した感想全般として、個人で同じ場所を回ったとしても今回のような経験はできなかった。訪問場所各所での丁寧な説明は大変ありがたかったです。どこも大変思い出深かったのですが3箇所に絞ってあげさせていただきます。

震災遺構 旧大川小学校 語り部さん

正直なところ新聞、TVでのニュースの先入観があったが、語り部さんのお話し聞いてみて現場を見ると違った角度が見えてくる。真実は何？とあらためて考えさせられました。

鶉住居復興スタジアム

防災を象徴する場所としてのスタジアムのできるまでの経緯について丁寧に説明されました。有名選手にスタジアムの中（選手控室、貴賓室、サイン等）も案内していただき良い思い出になりました。

いのちをまもるみらい館

震災の時、当時中学生だった女の子が語り部さんでした。20才くらいになられたと思いますがあどけなさを残しながらおじさんたちに当時の自分の思いを語ってくれたのがとても印象的でした。小学生の手をつないで逃げる際に命ひとつ預けられたの言葉が心に残りました。

出会った方の皆さんから、誠実さ、謙虚さ、優しさが伝わる本当に心に残る、心温まる研修会でした。

最後に事務局の皆様のご厚意に厚く御礼申し上げるとともに亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

以上

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
60代 男性

行 程： 令和元年11月28日～11月29日 1泊2日

感 想：

これまでも被災地や震災遺構は個人的に訪ねてきたが、有料でのツアーに参加したのは今回が初めてです。

やはり、語り部さんや施設での係員さんからの説明を直に聞くことは、伝わるものが違い、更なる知識を得ることが出来ました。

今更ながら、自分も防災意識を高めねばならないし、今回の研修で得た知識を周囲の人にも伝えなければならないと決意を新たにしました。

鶉住居「いのちをまもるみらい館」の、語り部「菊池のどか」さんの、方言（訛り）を交えての語りが、生々しくて引き込まれました。（とても上手です）

「釜石の奇跡とは言ってほしくない、普段から訓練していた」の言は、あらためて納得させられました。ゆえに、大川小の出来事は、本当に残念でなりません。主因は、危機感も無く防災に関心を持たず、指揮系統の整備もせず震災当日に学校を留守にした、最高責任者の小学校長にあると私は思っています

「宝来館」は震災直後からYouTubeで映像を観ていたもので、実際に宿泊し避難路の整備と訓練を常に実施していたことを、女将さんの案内で説明を受け、企業の長たる者の責任を果たしていることの素晴らしさを感じ取ることができました。

改善点：

・ツアー主催者に責任は無いが、大川小での語り部さんが、拡声装置なしでの肉声での説明だったので、今回のように人数が多く近くに寄れない場合は、聞き取れなかった。（ボランティアの語り部さんに用意をしてもらうのは酷だと思うので、寄付を募ってみませんか？）

・昼食と宴会飲食代の別途支払いを、全額一括料金にしたほうが良いと思う。夕食前にお風呂には入れる行程にしてほしい。

以上です

今後も素晴らしいツアーの催行を期待します。

有難う御座いました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

東京都在住
50代 男性

1. 東日本大震災発生時

東日本大震災発生時に私は、川崎駅の駅ビルの上層階で設計事務所の方と打合せを行っておりました。川崎市でもかなりの揺れを経験しました。交通機関がマヒし、川崎駅は大勢の人で身動きも取れない状況でした。仕事の都合上、横浜市にある事務所に帰るにも大変でした。道のりは15kmでしたが、帰宅難民を経験しました。その帰り道で、携帯電話で津波のニュース画像を見たのですが、今でも忘れられない衝撃で鮮明な画像を覚えています。

2. 研修会に参加した理由

私は、会社での立場上、全国の支社・支店・現場等に出向く事があります。今回、震災の被害が大きかった宮城県、岩手県にも以前出向いております。特に、震災復興関連工事は、弊社でも受注し、多くの現場で施工しております。旧大川小学校の近くでも、復興関連工事現場があり、旧大川小学校にも訪れております。

今回の研修で、旧大川小学校がルートに入っており、『大川伝承の会』による講和、説明があるということが、参加の一つの要因です。報道等ではなく、実際に震災を経験された方の話が聞けるから参加を決めました。

3. 研修会での感想

どうしても、旧大川小学校と鶴住居小学校の比較になってしまいます。何で対応に差が出てしまったのか。亡くなった方の親族、助かった方、色々な人の話を聞いて私自身も自然災害に関して改めて考えさせられることが多くありました。他人ごとでは無いと 思い知らされました。

語り部さんの震災時の体験や、津波の映像、特に、『いのちをまもるみらい館』の語り部さんの話を聞くことができ良かったです。すごく胸に刺さりました。あのパニック状態での判断は、『てんでんこ』の教えを伝承している地域、避難訓練のたまものであると思いました。

4. 研修会に関して

今回の研修は、2日間と短時間でしたが、個人では廻り切れないスケジュール感で震災の凄さを改めて認識できました。気持ちは減入ってしまう部分もありましたが、充実した研修でした。

(一財) 3.11 伝承ロード推進機構の皆様方に感謝致します。

3.11伝承ロード研修会に参加して

東京都在住
70代 男性

東日本大震災については、発災直後頃（6月くらい）に、職業団体の関係者に調査団結成を募り、現場を視察したころから、興味を持って、状況をフォローしてきた。今次研修会の前にも、土木学会等を中心にした事業に参加して、その後の進捗を私なりに継続して観察し、関係各位のご努力を、尊敬の気持ちを持ち讃えてきた。今回においても、そのような印象、すなわち、公共私的に限らず、それぞれの事業に対する、関係各位の大きな努力を感じることが出来たことは、大きな成果であった。

今後も、御団体を中心にして、出来るだけ多くの方々に、視察に参加していただきたく、感じた。

その際に、今次企画にあったような視察対象も、継続して、その後の進捗が観察できるような内容は、大変に重要であると考えている。特に、私的に現場を訪問しても、視察に偏りができる恐れはもちろんのこと、大繰りにしか見ることが出来ない事であろうことは、想像に難くない。団体として企画し、多くの参加を募集してこそ、御団体の活動の成果が、多くに寄与できる最も大きな活動であろう。

また、今後の企画に対する希望として、復興事業の進捗観察としての対象を、さらに広げていただきたい。例えば、鉄道関係、高台移転、その際の社会再構築の計画・実施成果等々、今次災害を契機として、様々な新規な社会基盤の再構築が考案され、実施に移されている。

様々な視点について、多くの方々が検討・議論した経緯、最終実施事業の内容、事業実施の成果、その後の経緯等、社会一般が特に土木（その多くが社会の一般の方々に広く認識されていない処で実行されている）がどのような社会に貢献しているのかを、ぜひ、広く、判りやすく、知らしめていただきたい。

貴団体の、今後の活躍を、心から祈念します。

以上

3.11伝承ロード研修会に参加して

岩手県在住
50代 男性

「大川小学校」につきましては報道にて、起こった事象や問題を認識していたつもりでございましたが、実際に「語り部」の方のお話をお聞きして、報道では知りえなかった生々しい現実の一端を知ることができました。現地に立って、歩いて、その時の状況に思いを馳せ、子供たちや先生方の心中を思い、また9年近い歳月を経た今でも毎日遺骨を探し続けている遺族の方々を目の当たりにして、胸が苦しくなりました。私には3.11当事、小学校の中・高学年だった子供がおりますし、父や兄は教諭です。親として子供を失った悲しみと事実が伝わらない悔しさ、結果的に教諭として子供たちの命を助けることができなかつた無念・・・思いは複雑に重く交差します。

私は誰もが予想することができなかつた規模の未曾有の大災害が起こった場合、その被害について誰かが「訴え・訴えられ」誰かが「犯人」になることはあるべきでないと思っています。切迫した短い時間で咄嗟にベストの判断ができる方がどれ位いるのでしょうか？しかし起きた事実が故意に捻じ曲げられ蓋をされたとするならば、やはり「事実を知りたい」「納得できない」と思います。動かない岩を動かす手段として裁判に訴えるしかなかったのかもしれない。またテレビ等の報道のされ方（問題の取上げ方や視点）に一方的な偏りや違和感を感じており、実際に自分の目や耳で感じ取り考える事が大切だと思いました。

鵜住居の「宝来館」の女将や「いのちをまもるみらい館」の語り部で当事中学生だったお嬢さんのお話。人が訪ねてくる度に当時を思い出して話すのは辛くないだろうかと思いながら聞いていましたが、気丈に明るく振る舞う姿を見て、私たちは3.11で失われた尊い命や生活のことを忘れずに、教訓を後世に伝えいかなければならないと思いました。

仕事で何度も訪れていた場所も、視点を変えて歩くことで今まで気付かなかつたことを感じる事ができました。この度はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

東京都在住
50代 男性

【感想】

○東北地方の隣県（茨城県）に居住しているものの、東北沿岸地域の被災状況を間近で知る機会は少なかった。

メディア等では被害状況や避難状況、復旧・復興状況等がとりあげられていたため、知った気になっていたが、やはり現地の人言葉には重みがあると感じた。よく言われることだが、あらためて東北の方々の「忍耐強さ」を行く先々で感じることができた。

このような機会を設けて頂いた機構の方々や、現地で対応頂いた方々にはあらためて感謝いたします。

【語り部さんについて】

○語り部さんは、やはり、その地域の被害の状況や年代により印象が変わるものだと感じた。

○旧大川小学校では、津波より実子を亡くされた女性によるもので、大川小学校でも避難教育はされていたものの実際には教職員含め70名以上の犠牲者を出したことから、その悲惨さ、無念さを強くうったえる印象だった（どちらかといえば負の印象）。

○一方で、鶴住居のいのちをまもるみらい館では、被害が多い地域だったにもかかわらず、決死の避難により幸いにも難を逃れた女性（当時中学生）によるもので、防災センターでの被災状況では涙を浮かべながらに説明されるものの、当時の必死さ、心境を強くうったえる印象だった（負の要素もありながら希望のある正の印象）。説明時に「東北弁」が混じるのもかわいらしく感じた。

【今後の要望】

○アンケートにも若干ふれたが、今回訪れることのできなかつた地域（福島県の相馬市、宮城県の仙台市や岩沼市、岩手県の気仙沼市や大船渡市等）も是非視察に訪れたい。

非常に簡単ですが、参加レポートとさせていただきます。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
50代 女性

令和元年11月28～29日の研修に参加させていただきました。

震災当時から、たくさんの映像、ニュース、写真など見てきましたし、仕事で現場見学会の事務局に携わった事もあり、地震から1年足らずの間のうちに宮古の防潮堤や高田松原、福島避難区域になっているところにも立ち寄らせていただく機会がありました。当時は全壊、半壊状態の建物がまだ残っているところもたくさんありました。

今回震災から8年たち、立派に整備された高田松原津波復興祈念公園を見て、当時の印象とまるで違っていた事にびっくりしました。

釜石の町もとても綺麗に整備されていて観光地としても素晴らしいところになっていました。ラグビー場の近くに海もあり、山もあり、川もある……そこまでそろっているところは全国的にみてもそうそうないとの事で、ワールドカップを釜石のラグビー場で行いたいという方達の熱意も実際行われた時の話も、感動的なものでした。

大川小学校で「大川伝承の会」の語り部の方の話と、釜石の奇跡と呼ばれた「いのちをまもるみらい館」で当時中学生だった当事者の方の話を聞いたのもとても貴重な事でした。

助かった命と救えたはずの命、両極端な結果につながり、どうしても大川小学校の見学ではつらく、こみあげるものがありました。

高校生の息子さんを亡くされた方の話もつらかったですが、釜石の奇跡と呼ばれた当事者の方が大人になり、語り部になり、あのとき、鶉住居で本来避難場所ではないはずの防災センターに避難した結果、たくさんの方が犠牲になってしまった事に今でも胸を痛め、なんとか助ける事ができなかったかと涙を浮かべていたのがとても印象的でした。

また、今まであれだけたくさんのニュースや映像を見てきたはずでしたが、遠野市が後方支援の拠点として、震災前から津波の際の内陸側の役割としてきちんと構想を重ね、訓練が行われ、実際、想定されていた地震より大きな地震でも、迅速なサポートができていたこと、恥かしながら今回初めて知りました。

500人の方が大槌高校に避難し、水も食料もないと、大槌から遠野へ向かう道路が崩壊している噂を聞き、車で遠回りして峠を2つ越えて、遠野市に助けを求めにいった男性がいた事も、その映像も残っていることも、初めて知りました。

あのとき、東北だけではなく、日本全国各地、海外からもたくさんの支援があり支えられたのも事実ですが、いち早く拠点となり、すぐ近くの市や町が後方支援として機能したことは素晴らしい事だと思います。

改めて、「防災意識」と「備え」、「後世に伝えていく事」が個人にも、行政、学校にも必要だということを痛感しました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

新潟市在住
50代 男性

○研修会に参加した感想

震災発生時、私は会社で仕事をしており、携帯電話の緊急速報メールが鳴り響いたあと、大きな揺れで会社から飛び出して逃げました。揺れが治まったあとテレビを点けると、津波がどンドン街をのみ込んでいく映像が目に入り、特撮映像ではないのかと疑ったほど衝撃的でした。

当協会は北陸地方整備局から災害支援業務を受託しており、数名が災害対策車や排水ポンプ車を被災地に運搬・稼働しました。

私は災害関係の業務を担当していることから、支援に参加したいと思っていましたが、身体を壊していたため支援に参加することができず、とても残念に思っていました。

かねてから、何かの機会があれば東北震災の復興を視察したいと思っていたところ、このような貴重な研修会の参加することができて、とても感謝しています。

被災者ご本人からTVニュースなどでは知ることができない、生々しい体験談を聞かせていただき、驚きと悲しみで涙が止まりませんでした。

今後も是非この貴重な研修会を続けて行って頂きたいと思います。
今回は有り難うございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

新潟市在住
50代 女性

日程：令和元年 11 月 28 日（木） 29 日（金）
企画：（一財）3.11 伝承ロード推進機構
参加人数：35 名様 + 事務局 1 人

東日本大震災の遺構などの施設を見学し被災地の復興状況を見てきました。

【震災遺構 旧大川小学校】

「大川伝承の会」による、語り部の三條さんのお話をお聞きました。息子さんを津波で亡くされ、遺体が発見された夜。泣きたくても避難所生活では、泣き声をあげる環境ではなくて、声を堪えて泣いていた～という話には涙が流れました。まだグラウンドを機材で掘り起こして、今もなお、探し続ける人。新聞などの記事で読むのと、この場所に来て、見て風を感じて実際にお話を聞くのとでは違う臨場感がありました。

地震直後、子供たちの一部は山に逃げていたのに先生に連れ戻され、助かるはずの命が失われた現実。とてもせつないです。みんな人ごとに思っではいけない。過去の災害から得られた教訓が伝わっていれば助かる命はあったはずです。

【うのすまい・トモス】

2日目に見学した釜石の子供たちは、先生のまっ先に逃げろ。との指示で、津波のこない所まで逃げて助かり、大川小学校との差に向き合うのは辛すぎます。当時中学生で東日本大震災を経験した女性の説明でした。小学生の手をとり一緒に逃げた時の危機せまる話にも涙が流れました。

「命・てんでんこ」ひとりひとり信じて逃げる。決して戻らない。自分の命は自分で守る。肝に銘じます。

東日本大震災の出来事を、忘れられないように語りつぎ、教訓を活かして永遠に引き継いでいかなければならないのだと思います。

効率良くバスでの移動でしたが、少し強行軍だったように思います。遠野は行かなくても良かった、と感じました。

これからも様々な取組や事業に期待しています。2日間、お世話になりました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

新潟市在住
40代 女性

今回、研修会に参加させていただき、大変有意義な二日間となりました。

報道等で見たり、聞いたりして、知ったつもりでいたこと、想像していたことを実際に現地を自分の目で見ながら、震災に遭われた方から直接お話を聞くことで、自分の身に置き換えて考えることができました。

今後、伝承ロードの取り組みをきっかけとして、修学旅行や防災授業、地域、職場などコミュニティー単位で多くの方が訪れ、同じ思いを共有しながら自分たちの身近な防災について話し合う機会が増えていくことが、地域防災へと繋がると思います。

貴重な体験をありがとうございました。

- ・「命てんでんこ」早速小学生の息子たちに教えました。
何か起こったら、自分でよく考えて、命を守る行動をとるように。
大川小学校の高台までの距離、高台からの景色、語り部さんのお話、
まだ何かを見つけようと作業しているショベルカー、胸がつまる思いでした。
津波伝承館に展示してあった泥だらけの鍵盤ハーモニカも忘れられません。
- ・川のビジターセンターにトイレ休憩で寄りましたが、外にはトイレが一つしかなく、男女兼用は残念です。施設内のトイレを利用するには、靴を脱いで施設用のスリッパに履き替え、トイレ入口で更にトイレ用のスリッパに履き替える、は不便に感じました。

以 上

備えして身を守る

新潟市在住
50代 男性

11月28～29日、「3.11伝承ロード研修会」に参加させていただきました。5年ほど前に松島～宮古を訪れましたが、今回は語り部から実際に遭った話を直接聴く機会をいただき、全く違った被災の一面を知りました。

旧大川小、釜石うのすまイトモス「いのちをまもるみらい館」語り部の話は、東日本大震災の想定を超える高さで勢いの津波からの避難でした。

旧大川小では、より高台の裏山に直感で逃げた児童は連れ戻され、児童78名は指示のないまま寒空のなか50分も校庭で待ち続け、津波にのまれて命を失いました。裏山に登りさえすれば、命を取り留めることができたのに。案内していただいた裏山は急斜面ですが、すぐに登ることのできる山でした。何を待って校庭にいたのか。絶句しました。

一方、釜石「いのちをまもるみらい館」では、当時中学三年生だった語り部から、「釜石の奇跡」と呼ばれる避難の話の伺いました。

釜石では、揺れの後すぐに事前の訓練をしていた指定の場所に集合。危険が迫っていたため、先生の指示により訓練で行っていた点呼は取らずにさらに移動。先生に小学生と避難するよう指示され、この子の命を守れるかと不安になりながら必死に手を引き移動したそうです。そこから先へ先へと何箇所か移動した後、恋の峠と呼ばれる高台へ避難。全員無事の避難だったそうです。

避難の際、責任の所在は明確で、第一責任者がいなかったら、次は誰の指示を受けるか事前に生徒も認識していた、とのこと。指示系統の備えがあったそうです。指示する先生方にも避難経路等の備えがあったらと推察されます。備えが身を守ることを実感させられました。

そして最後に訪れた遠野後方支援資料館。内陸と沿岸の中間地点で、沿岸被災地へ物資を供給する地点となった遠野。事前の防災訓練を活かし、地震直後に遠野運動公園を拠点として解放し、自衛隊、警察、消防の救援部隊を受け入れたそうです。初動体制が早く整ったため、半日は早く物資を被災者に渡せたらとのこと。ここにも、備えがありました。

大災害にいつ何時見舞われるか分からない、とわが身を振り返ってみた時、何の備えもできていません。宝来館の女将からは、亡くなった方への強い想い、被災を乗り越え変革していこうというパワーをいただきました。それを受けて、まずは自ら動き、備えることをしていこうと思います。

3.11伝承ロード研修会に参加して

新潟市在住
40代 女性

■旧大川小学校

- ・語り部のお話しに涙がでた。
- ・裁判の報道を見て、予測できない大災害に対して、学校に責任を問うのは厳しいと思っていたが、小学校のすぐ裏にある高台を見たら、なぜ逃げられなかったのかと強く思った。

■高田松原津波復興記念公園/東日本大震災津波伝承館

- ・記念公園が壮大で驚いた。
- ・伝承館は、継続的に人がたくさんきてくれるような施設になればと感じた。

■宝来館

- ・食事が美味しかった。
- ・女将の、体験を伝えたいという熱意が伝わってきた。2日目の朝、高台に案内してもらった。

■釜石鵜住居スタジアム

- ・ロッカールームやVIPルームに入ることができて楽しかった。

■うのすまい・トモス

- ・大勢の人が亡くなった「防災センター」が衝撃的だった。避難場所が安全なのかどうか、認識しておく必要を感じた。

■グリーンベルト・狐崎

- ・グリーンベルトや自動閉鎖できる水門陸閘は、完成してからが大切だと思った。

■遠野後方支援資料館

- ・現地の拠点も大切だが、後方支援を行う上でも拠点や体制づくり、訓練が必要だと感じた。

■全体を通して

- ・本当の姿は、現地に行ってみないと分からないと思った。
- ・全体的に、スケジュールがタイトだったが、広範囲を周れたことは良かった。次回は、エリアをしぼって時間をかけて回ってみたい。
- ・説明はマイクがあったほうが良いと思った。(どこかでマイクがなくて聞こえづらかった)
- ・工事関係者や施設関係者の姿は見たが、地元住民をほとんど見かけなかったのが気になった。
- ・いろいろとお世話になり、ありがとうございました。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
50代 男性

2011年3月に発生した東日本大震災からまもなく丸9年を迎え、年月を得て復興はある程度進められつつあるが、震災で壊滅的な被害を受け、今回の研修会で参加した宮城県・岩手県地方にはおおきな傷痕が残されており、その地で暮らす方々は今もなお震災被害とともにする生活を余儀なくされている。

しかしながら、時の経過とともに世間においての震災の記憶が徐々に風化しつつあるのも事実である。今後約90%の確率で来るであろう宮城県沖地震や3.11東日本大震災と同じような超巨大地震(東北地方太平洋型)で生きていくうえで、過去に発生した震災の被害を知っておくことはとても重要な事だと今回の研修で改めて感じさせられた二日間であった。

特に今回の研修で一番印象に残った場所が、1日目の遺構見学場所の旧大川小学校の語り部ガイドの話、同日に宿泊した宝来館の女将の講和、2日目の鶴住居トモスの語り部ガイドの話は強烈にインパクトを与えさせられた内容であり、どれも実際に体験された生の話がきける貴重な機会でもあった。

ただ共通して言えることは、震災はつらい思い出だが、そこにあった建物や風景、存在していた人や思い出を無かったことにしたくないという事であろう。

同じ小学生の子を持つ親として、明暗を分けた旧大川小学校と鶴住居小学校の話をお聞きさせて頂いて感じたことは、避難する際の指導者の防災教育認識を改めて考えてもらう事が大事な事であると同時に、自分自身もそうだが妻や子供達に対し改めて防災に対する知識や意識を向上させるとともに、命を守るための判断力を養うことがとても大切な事だと感じさせられた二日間の研修内容であった。

今回訪問したかった福島県エリアの施設にも今後このような研究会の案内があったならば是非参加してみたいと考えている。

3.11伝承ロード研修会に参加して

仙台市在住
60代 男性

1. 研修会に参加して

私の居住地は岩手県一関市です。内陸であることから津波の影響はなく、地震による被害だけであったこともあり、今では震災前と変わらない生活を送っています。震災当時は一関から仙台へ新幹線通勤をしており、約1ヶ月半の間仙台～一関間は不通となったため仙台に滞在し、大変厳しい環境下のもと、当時勤務していた電力関係会社の設備復旧に係わりましたが、今ではその記憶も薄れかけているように思います。

しかし、今回の伝承ロード研修会を通じ、津波災害があった地域では未だに復興半ばという感じであり、復興に奮闘している人々の生き方を目の当たりに感じる事ができました。

今我々は何をしなければならないのか、改めて考えさせられる2日間であったように思います。

2. 語り部さんと伝承施設

親族を亡くされた方、津波から命がけで逃れた方からの、紛れもない真実と説得力のある語り部さんからの話であり、その時の恐怖と大変無念であったろう思いが、ひしひしと感じられ胸が締め付けられる思いでありました。

このような悲しい出来事を無くすためにも、津波の恐ろしさを後世に伝えることの大切さを、思い起させられた語り部さんとの出会いでした。

また、この津波防災のため後世に長く伝えていくためにも、各地点に建設された伝承施設は有効なものなので多くの方に見て頂きたいし、私自身も家族、親戚、友人等を案内したいと強く思ったところでもあります。

3. 研修会のあり方について

語り部さんからの話や伝承館等での見聞は大変有意義であることから出来るだけ多くの方に「3. 11 伝承ロード研修会」に参加して頂けるよう企画して頂きたいと思います。

また、参加費用についても、今回は会社業務という扱いから個人出費はありませんでしたが、一般の方々にも多く参加していただけるよう公的資金または企業等の寄付金などを活用し、お手頃な個人負担にして頂ければと思います。